

大腸腺腫の発生要因を探索する症例対照研究 — 遺伝-環境相互作用を中心に —

1. 研究の対象

2004年2月から2005年1月までの期間に、国立がん研究センターのがん予防・検診研究センター（当時）を受診され、大腸内視鏡検査を受けた3,212名のうち、大腸腺腫が見られた782名と、対照となる738名を対象としています。

2. 研究目的・方法

◇ 研究の目的

大腸腺腫は大腸がんの前がん病変といわれており、大腸腺腫の予防は大腸がん罹患の予防に寄与すると考えられています。本研究では、大腸腺腫の発生に関連する遺伝要因および環境要因を明らかにするため、遺伝-環境相互作用を中心に様々な検討を行い、大腸腺腫の発生要因を探索することを目的としています。

◇ 研究の方法

「1. 研究の対象」で示した1,520名を対象に、大腸腺腫の有無と食物・栄養素摂取、各種感染抗体、関連遺伝子多型、各種画像データ等との関連を検討するとともに、それぞれの組み合わせと大腸腺腫との関連も検討します。がん検診の際、研究用にご提供頂いた血液試料を用いて、遺伝子解析研究を実施することも計画しています。

◇ 研究の実施期間：機関長による許可日～令和6年3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ① 国立がん研究センターのがん予防・検診研究センター（当時）で、大腸内視鏡を含むがん検診を受診された際に収集された性別、生年月日、医療画像等を含む検診情報
- ② 国立がん研究センターのがん予防・検診研究センター（当時）で、大腸内視鏡を含むがん検診を受診された際にご回答下さった生活習慣アンケート等の調査情報
- ③ 国立がん研究センターのがん予防・検診研究センター（当時）で、大腸内視鏡を含むがん検診を受診された際に研究用にご提供下さった白血球検体を含む血液検体等の生体試料

* 白血球検体からDNAを抽出して、遺伝子解析研究を行うことがあります。

4. 外部への試料・情報の提供・公表

◇ 試料・情報の提供

本研究で利用される試料・情報等は、外部への提供如何に拘わらず、国立がん研究センター 社会と健康研究センターの個人情報管理室で匿名化されています。対応表は、国立がん研究センター 社会と健康研究センターの個人情報管理室で厳重に保管・管理されています。

◇ 情報の公表

研究の成果は、論文および学会等で発表します。遺伝子解析の結果は、集団の頻度として表され、個人が特定できることはありません。

5. 研究組織

国立がん研究センター	津金 昌一郎	(研究代表者、2020年度まで)
	山地 太樹	(研究代表者、2021年度から)
味の素株式会社	山本 浩史	

6. 問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報、知的財産の保護に支障のない範囲で、研究計画書、および関連資料を閲覧することが可能です。また、試料・情報が、当該研究に用いられることについて、対象者の方、もしくは対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。
この場合も対象者の方に不利益が生じることはありません。

◇ 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

国立がん研究センター 社会と健康研究センター 疫学・予防研究グループ内
研究事務局 片桐 諒子
〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
電話 03 (3547) 5201 (内線 : 3334)

◇ 研究代表者/ 研究責任者

国立がん研究センター 社会と健康研究センター 疫学研究部
室長 山地 太樹